

CAPD

Q2 78歳の男性です。慢性糸球体腎炎のために腎機能が低下し、透析が必要といわれました。血液透析と腹膜透析 (CAPD) の二つの治療法の説明を受けましたが、どちらの透析療法を選ぶか迷っています。高齢者でもCAPDはできるのでしょうか。

A2 末期腎不全治療の三本柱といわれるものの中で、後期高齢者には腎移植の適応は少なく、血液透析とCAPDの二つの療法が選択されます。最近の透析技術の進歩により、高齢者でも安全な体外循環が可能となっていますが、血圧の変動や心循環器系への負担が少ないCAPD療法は、高齢者により適した透析療法と考えられています。また、血液透析に比べて残存腎機能(尿量)が比較的長く保たれるCAPD療法は、水分制限が少なく食事の自由度が高いことや、在宅

医療としての利点と相まって、高いQOL(生活の質)が得られる透析療法として注目されています。

世界的な高齢化の流れの中であって、人が高齢になるまで保持し続けている能力は、高齢者の在宅医療を考える上で最も頼りがいのある原動力といえます。しかしながら、本質的に、時間とともに衰退していくことが明らかかな高齢者の能力ゆえに、透析導入時に持っている能力さえも過小評価される傾向にあります。

表 高齢者におけるCAPDのメリットとデメリット

	メリット	デメリット
身体的因子	①心循環器系の負担が少ない ②シャントが不要である ③血圧の変動が少ない ④体内環境が一定に保たれる ⑤残存腎機能が保持されやすい ⑥食事の制限が少ない	①多くの合併症を持っている ②低栄養になりやすい ③身体的能力が次第に失われていく ④指導に時間と根気が必要である ⑤本来の寿命がある
精神的因子	①生きることの尊厳を保てる ②自立能力を活かせる ③CAPDを受容しやすい	①家族や介護者の負担に対する遠慮がある ②年齢に対する不安感がある
社会的因子	①環境の変化が少ない(在宅医療) ②家族の支援が得られやすい ③通院の回数が少ない	①自立できない場合の支援システムが確立されていない ②在宅医療に対する社会的理解が乏しい

けれども、導入時まで自立あるいは家族の支援で自立していた高齢者が、CAPD 導入後に予想以上にすばらしい透析ライフを送れることや、CAPD 療法が高齢者に精神的に受容されやすいことから、高齢者における CAPD 療法が増加しています。

さらに、介護保険制度を利用した訪問看護により、完全に自立できない高齢者の CAPD

療法を支援することが可能となり、多くの高齢者が住み慣れた自宅での CAPD ライフを過ごしています。

高齢者の CAPD には、表のようなメリット、デメリットがありますが、メリットを最大限活かすために、まずは CAPD から始めてみることをお勧めいたします。

(平松 信/岡山済生会総合病院・医師)

